



- | | | | | |
|----------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 永代共養墓について | ぶつぶつ雑記ブログ | 真言宗について | 金剛院イベント情報 | 金剛院 建築計画 |
| いいなまち・みしら | 唱えてみよう! | 仏教一年生 | 金剛院News | メールを送る |
| こんごういんキッズ! | たいけんしてみよう! | まんが小坊主くん! | 金剛院について | おすすめリンク集 |
| メディアで紹介 | 東京お寺めぐり | ぶつゆきクイズ | 金剛院の四季 | バックナンバー |
| ほほほのれしび | ふしぎな密教法具 | 地図・アクセス | サイトマップ | |

最近の投稿

- [仏具の搬入が始まりました](#)
- [本堂の棟札があがりました](#)
- [天井板の交換](#)
- [本堂瓦の取り付け](#)
- [修行大師の修理について](#)

アーカイブ

- [2013年12月](#)
- [2013年11月](#)
- [2013年10月](#)
- [2013年9月](#)
- [2013年8月](#)
- [2013年7月](#)
- [2013年6月](#)
- [2013年5月](#)
- [2013年4月](#)
- [2013年3月](#)
- [2013年2月](#)

外壁塗装の適正価格は？

利用者の93%が【安くなった】と回答。あなたの街の適正価格／5秒でチェック！

gaiheki.yeay.jp



京都修復仏具ツアー

投稿日: 2013年06月28日 (金)

建築委員会の皆さんと、本堂で使用している仏具の修復状況を京都へ視察に行きました。

今回の本堂耐震改修工事にあって、仏具を新しくするのか、それとも修理をするのか判断をしなければなりませんでした。

その判断の一番の決め手は、飾り金物「かざりかなもの」でした。飾り金物とは、仏具の木と木の組み手や釘などを隠し、補強と装飾性を増すために作られるプレートの金属板のことです。

ただ普通の金属板では意味がないので、金属を叩いて模様をつけるわけです。その模様が、とても細かく良くできているので、それを生かすためには修復の道しかありませんでした。

なぜなら、金物は脇役なので本体の仏具を金物に合わせてして作成することは、極めて困難なことだからです。

そこで、仏具商の老舗である浅草・翠雲堂さんのお見立てで京都をはじめ、それぞれに特化した職人さんへお願いをしました。

もともと、職人さんの工房へ出向くことは、大変迷惑なことかと思いますが、その細かい、そして技術のこだわりの世界観を間近に拝見して、日本の伝統技術の深さに参加者は脱帽です。

まず、初めに訪問したのは、今回の修復への道にきっかけとなった飾り金物の職人さんへ・・・。

驚いたことに、金剛院の飾り金物は、50年前に現在の当主の職人さんの父上が作成したものだったとか・・・。形や模様ですぐにわかったそうです。

先代が作成した飾り金物と50年ぶりに再会し、本当にうれしそうで、職人氣質も高まります。



手で持ち上げると銅板の板は、意外とズッシリと重いです。
仏具に取り付けてしまえば、持つこともできない貴重な体験です。



普段はお見せできない職人さんの命とも言えるべき道具や打ち方も
見せて頂きました。50年前100年前の道具が無造作に置いてある
空間に歴史の重みを感じます。

次は、金箔押しの職人さんです。こちらの職人さんは金閣寺の
金箔監理をしている方です。金剛院の宮殿「ぐうでん」という
本尊さまの入れ物の板や飾り木材に金箔を張り付けていく
作業です。



見ていると簡単そうに見えますが、70歳になってその技術の加減がやっとわかったというくらいですか、これも相当に奥が深そうです。



0コンマいくつの薄い金箔をシワなく張り付けていくことは、サランラップが上手く貼れないことを想像して頂ければわかると思います。

しかも接着剤は漆ですから、乾かないうちに金箔を貼っていかねばなりません。そのために温度や湿度・風の管理は、必数で、蒸し風呂のような風のない場所で作業が行われています。

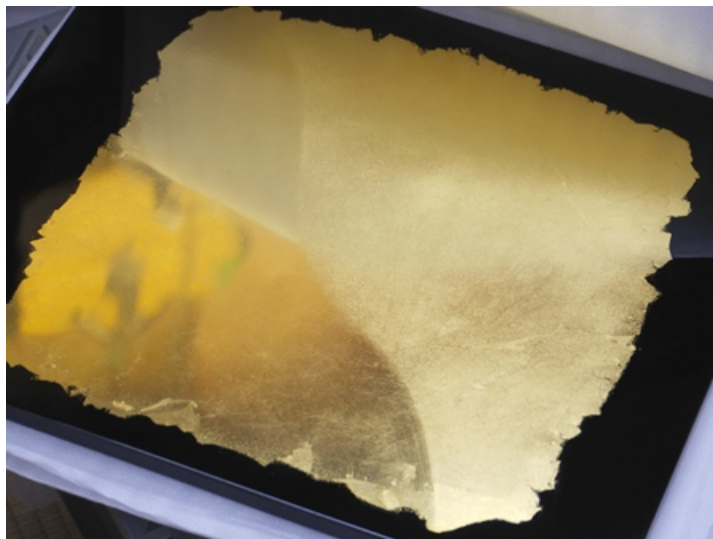
いまどき熱中症注意なんて、ここでは笑って過ごすでしょう！！
関係ない、関係ない・・・プロの世界観には、ちょっと頭がさがります。

こちらは宮殿の袖板です。平らのところに箔押しすることは、ごまかしがきかないので、これも熟練の技となります。



空気が入ったところは、この後に真綿で押していくそうですが
この押し具合が、簡単そうでできない加減で70年という歴史
なのでしょう！！

漆の塗り具合によって金箔に微妙な差が出てきます。
この加減だけでも何十年とかかるみたいです。
何事も簡単そうにしていることには、奥があるのですね！！



こちらは宮殿の漆塗り……。漆は、温度管理とホコリ管理が大変で
蒸し暑い部屋で、しかも一発勝負の漆塗り……。



木地直しを行い、凸凹面を平らにして下地を丁寧に仕上げます。



その後に漆を下塗り、中塗り、上塗りと乾かしては塗って仕上げてますがどうしても刷毛ムラが残るので、墨や鹿の角などで磨いていきます。

呂色磨「ろいろみがき」といって、この工程を何回も行くと漆独特の黒光となり、そこに、先ほどの飾り金物がつくと立派な本尊さまの家が出来上がります。

しかし、まだまだです、金剛院の宮殿は、蒔絵の戸板がついています。これは、さすがに修復はできないので、同じデザインで現代的な手法も取り入れたものを作成中・・・。



右が既存のもの、左が新規に作成中のものですが、今回訪ねてみるとクジャクの形を表してきました。



蒔絵は、漆が乾かないうちに、そこに金粉や銀粉などの金属粉を「蒔く」ことから、蒔絵と呼ばれています。

どんどんと積み上げていく手法なので触ると、それぞれの絵柄が浮きあがって立体感ができているのがわかります。

これも最終的には金を蒔いて完成です。あと3ヶ月くらいかかるそうですが・・・。

最後は、[前回のニュースで紹介](#)した「けいす」の工房へ・・・。

<http://www.kongohin.or.jp/kenchiku/2013061484.html>



A4厚さ5センチほどの金属板を叩いては叩いてのばしていくのです。一番薄いところでは、紙の厚さくらいというから驚きです。

金を叩く金属音に参加者もビックリです。



お寺を支える職人さんと間近に触れて、新たな日本文化を感じたようです。

そして最後は、舞妓さんの踊りにウツトリ・・・。



華やか世界に見えますが、舞妓さんも伝統文化が好きでなければ
決してできない世界でしたね！！

≪ [伝統仏具](#) [工事は順調に進んでいます](#) ≫

香典返しのギフトジャパン

マナーから人気商品まで、香典返しの専門店。専任スタッフが安心のサポートを致します。 giftjapan.jpへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



© 2002-2016
真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)
[しいなまち みとら](#)
[こんごういんキッズ](#)
[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)
[唱えてみよう！](#)
[たいけんしてみよう！](#)
[東京お寺めぐり](#)
[ばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)
[仏教いちねんせい](#)
[まんが 小坊主くん！](#)
[ぶつ仏クイズ](#)
[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)
[金剛院NewS](#)
[金剛院について](#)
[金剛院の四季](#)
[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)
[おすすめリンク集](#)
[バックナンバー](#)
[サイトマップ](#)

不合格になる子の学習方法

頑張ったのに不合格になる子。その子達には、"共通点"があります
koko-goukaku.netへ進む

